

## 計画の目標

目黒川の水環境を改善していくため、達成すべき目標を設定しました。現在、目黒区には悪臭に関する苦情が多数寄せられており、水環境問題の中でも悪臭対策が喫緊の課題であるため、目黒川で早急に達成すべき短期目標として「悪臭の軽減」を掲げます。

問題	短期目標(概ね5年後)	中期目標(概ね10年後)	長期目標	設定根拠
悪臭	大気中硫化物濃度 0.2 ppm 以下 (達成率 50%)	大気中硫化物濃度 0.2 ppm 以下 (達成率 100%)	大気中硫化物濃度 0.06 ppm 以下	悪臭防止法の基準値に 基づき設定
	においの強い日が 現状の 50%	においの強い日が なくなる	においが更に改善	
白濁化	-	白濁化レベル 1 以下 〔 表層硫黄濃度 0.25mg/L 以下 〕	白濁化レベル 1 以下 〔 表層硫黄濃度 0.25mg/L 以下 〕	目黒区の調査結果に基づく 独自の設定基準
スカム	-	(水面を占める割合) 1%以下	(水面を占める割合) 1%以下	目黒川と同様に水環境問題が 発生している都市河川である 大田区の呑川を参考に設定
水質	環境基準 D 類型 pH: 6~8.5 BOD: 8mg/L 以下 SS: 100mg/L 以下 DO: 2mg/L 以上	環境基準 D 類型	環境基準 D 類型	環境省の定めに基づき、目黒 川に設定されている水質基準 である。令和元年度現在でも 概ね達成している。

## 目黒川の将来ビジョン

現在の対策は今後も続け、新規に高濃度酸素溶解水供給施設の整備等を実施することにより、目標の達成を目指し、将来ビジョンの実現を図ります。今後、この将来ビジョンを実現するためには、流域自治体や近隣住民、その他関係機関が協働して水質浄化対策を継続的に推進していきます。

### 短期ビジョン 悪臭が軽減された目黒川

概ね5年後の稼働を目指して、高濃度酸素溶解水供給施設の整備を行います。また、初期越流水貯留施設の整備及び部分分流化の推進を実施します。効果的な浚渫の実施については、検討に必要なデータを収集するためのモニタリングを定期的に行います。

### 中期ビジョン 悪臭・白濁化・スカムが大幅に軽減された目黒川

概ね10年以内に初期越流水貯留施設の整備(機能拡大)を目指します。また、短期対策に引き続き部分分流化の推進を実施します。効果的な浚渫の実施については、短期(概ね5年以内)のモニタリング結果を踏まえて実施箇所や手法等の検討を行い実施します。

### 長期ビジョン 川辺で憩える親しみのある目黒川

概ね10年後までに継続して実施するモニタリング調査結果をもとに、これまでの対策について評価を行い、その結果をもとに計画を再検討し、実施します。

目黒区 都市整備部 みどり土木政策課 事業管理係 03-5722-9741

## 「目黒川水質浄化対策計画」を策定しました

目黒川の水質は、公共下水道の普及や落水水再生センターからの高度処理水の導水などにより一定の改善はされてきましたが、船入場から下流の感潮域(潮の満ち干きの影響を受ける区間)では、流れが停滞することや雨天時に合流式下水道から汚水の一部が越流することが原因となって水質が一時的に悪化し、悪臭や白濁化などが発生する問題が生じています。

このような現状を踏まえて、目黒川の水質浄化を具体的に進めるため、令和2年6月に目黒川水質浄化対策計画を策定しました。



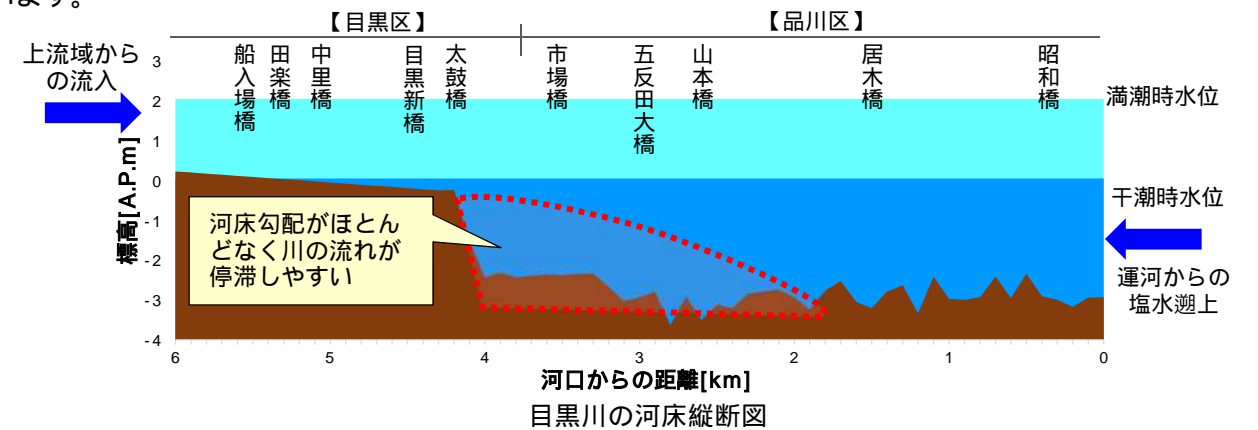
スカム発生時の目黒川

スカムとは、降雨時に下水道から越流した有機汚濁物が河床に堆積して嫌気性ガスを生成し、有機汚濁物が水面に浮上したものです。

## 目黒川の概要

目黒区の船入場より上流の自流区間は、比較的勾配が大きい流れが速く、水深も浅くなっています。一方、船入場より下流は海の潮の影響により水位が変動し、京浜運河から塩水が遡上してくる感潮区間です。

また、太鼓橋の下流では水深が大きくなり、勾配がほとんどないため停滞性が強く、ヘドロが堆積しやすくなっています。



目黒川流域は、ほぼ全域に渡り合流式下水道が整備されています。そのため、強い雨が降った時は、大量の雨水が下水道へ流れ込み、市街地を浸水から守るため、水再生センターで処理しきれない分の水が、下水道から河川へ放流される「越流」が生じます。越流水は、有機汚濁物が混じった雨水で、特に、雨の降り始めのタイミングに流れ込む初期越流水は、汚濁物の濃度が高いため、河川の水質へ悪影響を及ぼします。



## 計画の対象区間

目黒川における悪臭・白濁化発生メカニズムを踏まえて、感潮区間の上流端である船入場から硫化水素が蓄積する区間下流の市場橋までを対象区間とします。

